



計画案の夢

アンビルト・プロジェクト

アトリエCOSMOS

'93~'95

7

宮ヶ瀬コンドミニアム計画

文=白鳥健二

写真=大橋富夫



宮ヶ瀬コンドミニアム計画

——ある風景の残像を求めて——

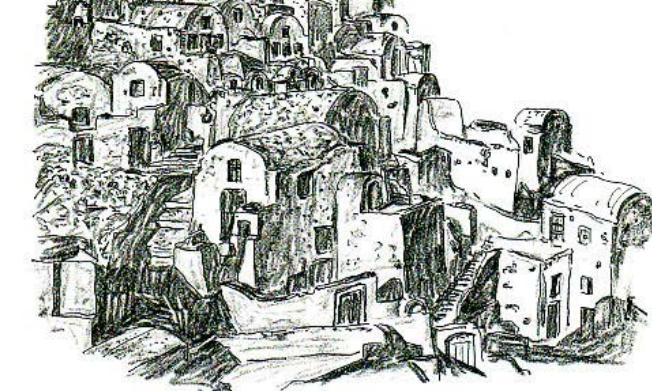
『ARCHITECTURE WITHOUT ARCHITECTS』という本がアメリカで出版された。もう25年も前のことだ。出版と同時に大きな話題となり、私の親しい建築家や若いアーティスト達は、当時そぞろこの本を熱っぽく語っていた。1960年代の後半期、特に若者たる間で圧倒的な支持を受けていたカウンターカルチャーの一一大ムーブメント、「私も幸い彼等と一緒にアメリカで生活していた頃だ。」あの渦中にこの本が出版されたのである。

アメリカの資本主義、近代主義は行き詰り、そろそろ終焉を迎えてつあったあの頃、「廻上的[VANACULAR]」で、無名[ANONYMOUS]で、自然発生[SPONTANEOUS]で、田園的[RURAL]。（バーナード・ルドフスキイ著、渡辺武訳）なるこの本の数々の風景が、私を含めて、彼等の心の奥にしっかりと焼き付けられ、同時に一つ一つの言葉が心の底にじんと染み込んでいった。

「意図的」なる世界が過剰なまでに行き渡ってしまったアメリカ社会にとって、「無名の町」たちの思想は、時にユートピアたちに近似し、その美学は至高の城（同前記）に写ったのであろう。たとえば竜安寺の石庭等にも見られる、いわゆる無我の造形に極限の姿を見せる無名性に対して、若い彼等は皆共通の驚き(WONDER)を持って欣愛していた。

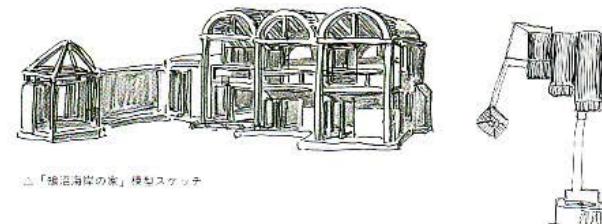
宮ヶ瀬コンドミニアム計画は、2連ヴォールト屋根と3連ヴォールト屋根を持ち、それとの棟かペデストリアンブリッジで連結された合体建築で、ユニットごとに進行した、15戸からなる集合住宅である。

これ以前の仕事で、やはり3段階に進行した平面形のそれそれにヴォールトの屋根を架けた「諭吉海岸の家」（『住宅建築』1989年12月号）という木造住宅があった。さらにその前の作品である「フォーラム」（『住宅建築』1989年12月号）において同様の手法で、2連のヴォールト屋根の建築をすでに完成させていた。そもそも、こののはじまりは「佐藤さんの家」（『住



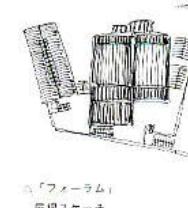
△「ARCHITECTURE WITHOUT ARCHITECTS」(BERNARD RUDDOF SKY著)
より梗概

“褐色の岩肌と対象的に目もくらむほど真っ白な家並は、奥でなく連続する彫刻のようである。”
(渡辺武訳)



△「諭吉海岸の家」模型スケッチ

△「諭吉海岸の家」屋根スケッチ



△「フォーラム」
屋根スケッチ



△「フォーラム」日口造、既述のヴォールト屋根は木造集成材を使用。
基礎部分は商業施設、上層部は2世帯共同住宅となっている。

宅建築』1982年6月号）の屋根であった。この項目はヴォールト屋根ではないが、やはり雁行した2組の片流れの屋根を架けた同じ手法による住宅だ。このたびの宮ヶ瀬コンドミニアム計画は、これらの脈絡の中で最大胆かつ建築で、今頃とくに完成しているはずであった。

何故ヴォールト屋根なのか……の理由はさて置き、冒頭で触れた本の中の一枚の写真、エーゲ海に浮かぶあの島の集落、そこに写し込まれている建築群。“暗色の岩肌と対照的には、目もくらむほど真っ白な家並は、はじなく連続する彫刻のようである。……古い家並は地方的伝統に従って形づくられ、円筒形の屋根のつななりはフーガのように整然としている”（同前記）

上質的で、アーニマスでありながら、この風景を見ているとどこか意識的見えて仕方がない。自然発生的でありながら、誰かがどこかでコントロールしているかのようでもある。何故だろう……との思いを抱きながら自分の設計をしてみると、いざとなると私自身、形あるものからの脱却はおろか、形ある自我からの脱却も出来ず、従って形に捕われない自己との出会いもなく、無我の造形の範囲の姿を見せる建築の無名性にただ脱帽するしかないであろう。考えれば考えるほどアーニマスな丘匠たちのユートピア的思想からほんの遠いいく、そもそも最初から土俵が違うのだと思いつつ、それでもなお欲求不満が残る。

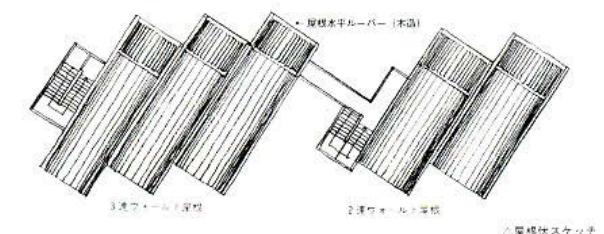
この集落に群生しているヴォールト屋根の建築群にしろ、竜安寺の石庭にしろ、あの完全なまでの調和は単に無意識に達成されるものではないはず。むしろ限りなく意識に意識を重ねた末によく到達出来る道程か、それとも意識の道が向う側に存在する無意識の力の成せる業か。

意識の末に無意識があり、無意識の末に意識があるとするならば、この集落の全体の中に相反する二つのものが共生している。それが私にとって今だに気になる風景の残像として焼き付けられている理由なのかも知れない。



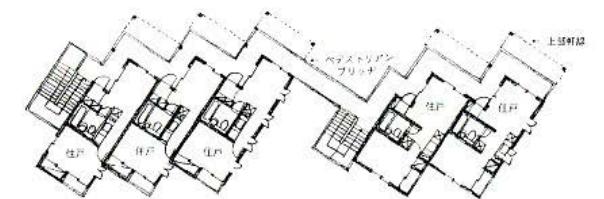
△宮ヶ瀬コンドミニアム計画模型

■宮ヶ瀬コンドミニアム計画



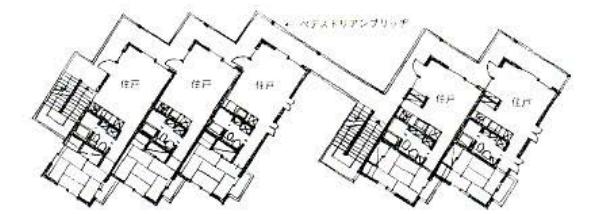
△オーバルト屋根

△複数ギルバー (本筋)



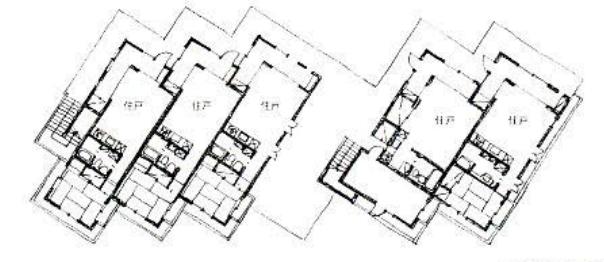
△3階平面スケッチ

△3階平面スケッチ



△ペデストリアンブリッジ

△3階平面スケッチ



△1階平面スケッチ



△「佐藤さん」の家
実行した2組の既述
片流れの屋根を開けた2世帯住宅。それそれの世界のアイデンティティを屋根で表現する。

資料

建物名——宮ヶ瀬コンドミニアム
建設予定期——神奈川県横浜市鶴ヶ島

主要用途——共同住宅

敷地面積——622.87m²
構造——RC造
規模——地上3階建
延床面積——728.89m²